

お知らせ

山田科学振興財団研究援助候補推薦について

山田科学振興財団より学会あてに、下記内容の59年度分研究援助候補の推薦依頼がありましたのでお知らせ致します。なお、申請日程が本年より変更になりましたので御留意下さい。

記(推薦要領抜粋)

1. 援助の対象: 自然科学の基礎的分野における重要かつ独創的な研究, 特に学際的色彩を持つ研究に従事する個人又はグループ。
2. 援助の金額: 1件につき1千万円前後2千万円以内の援助(A)及び1件につき3百万円前後, 5百万円以内の援助(B)を併せて10数件。
3. 援助の期間: 原則として1年。
4. 推薦件数: 1推薦者ごとに(A),(B)のおのおの1~2件。

申請用紙を御入用の方は, 学会庶務理事までお申し出下さい。申請書は, 昭和59年3月10日までに学会あて提出して下さい。

なお, 財団には下記の援助がありますので申請要領, 申請書等御入用の方は直接

〒544 大阪市生野区巽西1丁目8番1号

ロート製菓株式会社内

山田科学振興財団 宛御申込み下さい。

援助名	募集開始	締切日
来日 (59年4月~60年3月分)	58年4月1日	58年11月30日
長期間派遣 (59年4月~60年3月分)	58年4月1日	58年11月30日
短期間派遣	出発月の4ヵ月前の15日が締切日(例: 58年10月出発の場合58年6月15日が締切日)	
学術交流集会 (59年4月~60年3月分)	58年4月1日	58年9月30日

1983年3月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)

1	12,	53	6	11,	90	11	5,	30	16	4,	36	21	—,	—	26	10,	30
2	—,	—	7	12,	71	12	4,	26	17	4,	39	22	8,	69	27	—,	—
3	10,	60	8	7,	53	13	—,	—	18	6,	63	23	6,	51	28	7,	20
4	—,	—	9	8,	61	14	2,	4	19	5,	54	24	—,	—	29	—,	—
5	13,	97	10	—,	—	15	4,	25	20	5,	96	25	—,	—	30	—,	—
(相対数月平均値: 87.7)															31	7,	30

天文ナンバーワン物語 [VI]

一番重い, 大きい, 長い星間分子

分子を量的に表現してならべるのにまず第1に重さ一分子量一がある。人を含めて動物ならば重い≡大きいが成り立つが, 分子は中味つまり方が桁ちがいの物を組み合わせて出来ているので, もう一つの尺度として原子数をとり, 大きさ(空間を占める割合)を表現する量と考える。この2つの量で, 現在までに「一番」となった分子を表にまとめてみた。

一番になった年	一番重い星間分子 分子式(分子量)	一番大きい星間分子 分子式(原子数)
1937	CH (13)	CH (2)
1941	CN (26)	
1968		NH ₃ (4)
1969	H ₂ CO (30)	
1970*	CH ₃ OH (32)	CH ₃ OH (6)
1971	HCCCN (51)	
	OCS (60)	
1974		(CH ₃) ₂ O (2)
1975	SO ₂ (64)	
1976	HC ₅ N (75)	
1978	HC ₇ N (99)	
	HC ₉ N (123)	HC ₉ N (11)
1982	HC ₁₁ N (147)	HC ₁₁ N (13)

* この年最も軽い分子 H₂ が発見された。

今まで68種近い分子が発見されている中で, 案外首位の座の交代は少ない。それだけ一挙に大きくなったり重くなったりしたわけで, 考えてみればこれらの星間分子の発見が発表される度に驚いたものである(但し1969年以前は知りません。念のため)。理論家は H₂CO 生成を説明するのに四苦八苦しているうちに CH₃OH が出, 水素の付加は時間をかければ何とかと言っていると HCCCN が発見されるというてんこ舞の有様であった。重い事, 大きい事は印象が強いもので, CH₃NH₂ が東京天文台の6m電波望遠鏡でとらえられた時も驚き

昭和58年5月20日 印刷発行 定価300円
 発行人 〒181 東京都三鷹市東京天文台内
 印刷所 〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町251
 発行所 〒181 東京都三鷹市東京天文台内
 電話 三鷹31局(0422-31)1359
 社団法人 日本天文学会
 啓文堂 松本印刷
 社団法人 日本天文学会
 振替口座 東京 6-13595

